

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2021年10月30日

モデルナ社: 季節性インフルエンザに対するmRNAワクチンの臨床トライアル開始

【松崎雑感】

mRNAワクチンは、目的とするタンパク質合成情報を細胞内に送り込む「アプリ」です。このアプリを送り込まれた細胞は、そのアプリに沿って必要なたんぱく質を作ります。それは特定のウイルスや細菌に対する抗体である場合もあり、がん細胞を攻撃する抗体であることもあります。インフルエンザワクチンもこの方法で作られるようになるでしょう。このテクノロジーの最大の特徴は流行が予想される病原体に厳密な臨床トライアルの省略なしに、3か月以内にワクチンを作り実用化できる速さです。インフルエンザ流行株を同定してから、卵に候補ウイルスを植えて、そののちワクチンを製造するというプロセスが、何ヶタも速く実行できるのです。

モデルナ社：季節性インフルエンザに対するmRNAワクチンの臨床トライアル開始

Abbasi J. **Moderna's mRNA Vaccine for Seasonal Flu Enters Clinical Trials.** **JAMA.** 2021 Oct 12;326(14):1365. doi: 10.1001/jama.2021.17499. PMID: 34636873.

新型コロナウイルスのmRNAワクチンを開発したモデルナ社は、現在、季節性インフルエンザに対するmRNAワクチン開発に取り掛かっている。

7月に、4価のインフルエンザワクチン、mRNA-1010の第 I ~ II 相臨床トライアルの接種を開始したと発表した。

9月はじめ現在、180名の治験参加者が接種を完了したという。

このトライアルでは、mRNA-1010の、3容量接種の安全性と免疫誘導性を検証する。

WHOがワクチン候補として推奨する4種のインフルエンザ株のヘマグルチニン表面タンパクに対する抗体を作成する遺伝的情報を導入するものである。

モデルナ社は、年末までに、RSウイルスに対する実験的ワクチン、mRNA-1345の臨床トライアルⅡ～Ⅲ相を34000人に対して行う予定である。

FDAは8月にこのワクチンの認可について迅速処理対象薬とすることを決定した。現在までに認可されたRSVワクチンはない。

これらのmRNAワクチン候補は、新型コロナとRSVの両方に効く混合ワクチンを作るというモデルナ社の大戦略に基づいている。

新型コロナとインフルエンザの2種混合ワクチンはすでに実用化されている。

「毎年秋に、1回接種をすれば、重症化しやすい複数の呼吸器系ウイルスに免疫を付けるワクチンを作ることができれば、人々の健康に大いに貢献するだろうというのがわが社のビジョンだ」と最高経営責任者のステファン・バンセル氏は述べている。